



少なくとも二年以上凍ったままの土を永久凍土と言います。

富士山では測候所が建設された一九三〇年代から永久凍土がある

と知られていましたが、その存在が初めて証明されたのは七一年になってからです。名古屋大の大学院生だった藤井理行国立極地研究所名誉教授が明らかにしました。七六年の調査では、南向き斜面の三二〇〇付近に下限があると推定されました。

その後、静岡大の増沢武弘教授(現・特任教授)が、藤井さんと共同で永久凍土の分布について、ヤノウエアカゴケというコケと、ラン藻類の分布との関連で研究を続けていました。九八年には下限が七六年当時から百メートル上昇したと報告されています。これは地球温暖化の一つの証拠ではないかというのが、このグルーブの魅力的な

### 永久凍土

仮説です。

私たちのNPOが発足した時からのメンバーである増沢さんは「岩屋に泊まっていたのが、測候所を建てるようになって仕事が楽になった」と言い、学生たちを連れて二〇〇九年まで測候所を利用していました。

一〇年からは池田敦筑波大准教授や岩花剛アラスカ大学研究員のグループが、永久凍土の直接観測を始めました。許可を得て掘った深さ十メートルの穴に多くのセンサーが埋め込まれ、温度を連続的に測っています。凍土の微細構造などの研究にも着手しました。同じテーマを異なる観点から並行して研究できるのも、測候所借用による効果の一つかと思っています。



(土器屋 由紀子) 富士山測候所を活用する会理事